

(別添 2)

No.	
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆産地生産性向上計画

栃木市(大平町富田・大平町西山田・大平町下皆川・大平町牛久
・大平町川連・大平町土与・大平町伯仲・藤岡町部屋・藤岡町新波
・藤岡町蛭沼・藤岡町甲・岩舟町鷺巣・岩舟町五十畑・岩舟町和泉・曲ヶ島)
(作成主体:栃木市農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

栃木市は、全耕地面積に対して主食用米の作付割合が約6割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

現在、栃木市においては、水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・ビール大麦については、ビール会社との契約のもと適切な生産がされているが、さらなる安定生産を求める要望もある。食用大麦・小麦については、全量が製粉企業等に販売されているが、実需からの要望を生産量が満たしておらず増産を図る必要がある。

・大豆については、主に豆腐・豆乳企業に向けて販売されているが、実需からの要望を生産量が満たしておらず増産を図る必要がある。一方で、主食用米については、実需の要望が近年減少していることから、大豆への切り替えを図っていく必要がある。

(2) 生産における現状と課題

近年、作付面積は麦については減少傾向、大豆については横ばいで推移しており、産出額は低下傾向となっている。麦の作付面積低下の要因は、農家の高齢化もあり、水稻の作付が麦の作付よりも優先されるため減少傾向である。大豆については、新規栽培を行うには機械の整備に多額の費用がかかり、作付け拡大の障害となっている。産出額低下の原因として、作付頻度の増加による地力低下や排水不良が要因と考えられ、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や土壌改良資材の施用等の対策が必要となっている。さらに、近年は、大規模で耕作する農家数が増加傾向にあり、農地の集積が急速に進むことで、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こす要因となっており、高性能機械の導入や作付の団地化等の推進を図る必要がある。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	さとのそら	12	9	6	218	285	235	26	26	14
	ゆめかおり	5	3	2	218	285	235	11	9	5
大麦	もち絹香	12	16	21	365	380	505	44	61	106
	ニューサチホゴールデン	26	27	75	365	380	297	85	58	222
作物計		55	55	104	298	278	334	165	153	347

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	里のほほえみ他	18	20	17	187	185	208	33	36	36
作物計		18	20	17	187	185	208	33	36	36

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	さとのそら					6	5.4%	
	ゆめかおり							
大麦	もち絹香							
	ニューサチホゴールデン							
作物計						6	5.4%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	里のほほえみ他					0	0.0%	
作物計						0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

栃木市においては、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としている。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。